

令和6年度 授業改善推進プラン 国語科

1 「大田区学習効果測定」結果の分析

- 単元の流れや本時の目標を明確にして学習に取り組んだことで、基礎・活用ともに、どの学年も目標値を上回っている。
- 4～6年生全ての学年で、知識を問う問題と比較して、記述式の問題に対する誤答率・無答率が高くなっている。特に、自分の考えを論理的に記述する問題では、無答率が4～5倍程度高くなっている。
- 目標値以上ではあるものの、漢字や言語事項において誤答率が高くなっている。

2 課題点

- 漢字や言語領域で、児童の理解において、個々の大きな差がある。
- 自分の考えを説明したり、記述したりする力に課題が見られる。

3 授業改善策

(1) 低学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・ドリルやプリント、単元ごとの小テストを活用し、繰り返し練習させることで、文字の定着を図ることができるようにする。	・思ったことを話したり書いたりする機会を多く設けることで、自分の考えをもち、自ら表現することができる力を育てる。	・内容や感想など、自分の考えや思いを伝え合う機会をもつことで、伝え合う楽しさを感じることができるようにする。

(2) 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・ドリルやプリント、単元ごとの小テストを活用し、繰り返し練習させることで、漢字の定着を図ることができるようにする。	・指定された長さで文章を書く活動を取り入れることで、考えを明確にしながら文章を書くことができるようにする。	・文章に対する感想や意見を伝え合う学習から、考えが相手に伝わる良さに気付きながら、意欲的に活動できるようにする。

(3) 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・漢字学習の指導内容を充実させることで、漢字の定着を図る。 ・主語や述語、修飾語・被修飾語の関係を文構造内で意識させることで、文法に関する知識の定着を図る。	・事例や理由を列挙することや、図表を取り入れて分かりやすく書く方法を取り入れることで、条件に合わせて文章を書く力、自分の意見を明確にして文章を書く力、大切なことを落とさずにまとめる力を伸ばす。	・視点を明確にしながら感想や意見を伝え合う機会を設定することで、相手とともに考えを深めることの良さに気付き、主体的に活動できるようにする。

令和6年度 授業改善推進プラン 社会科

1 「大田区学習効果測定」結果の分析

- 教科の正答率においては、どの学年も目標値、区平均、全国平均を上回っている。
- 領域別正答率では、第4学年の4領域中、「地域や市の様子」と「安全を守る働き」の2領域において、目標値と全国平均を下回っている。
- 第5学年と第6学年の領域別正答率においては、それぞれ5領域全てで目標値、区平均、全国平均を上回っている。

2 課題点

- 設問別の正答率を分析すると、目標値に達していない設問のほとんどが知識・技能を問うものである。このことから、全体的な水準を考えた時に、やや知識・技能の習得に課題があると言える。目標値に達しなかった設問の多くが、イラストや地図などの読み取りであることから、知識・技能の観点の中で、特に資料活用の技能に課題があると言える。

3 授業改善策

(1) 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・ 日常的に地図帳を活用することによって、第3学年は地図記号、第4学年は等高線など、情報の読み取りを習慣化できるようにする。 ・ 単位時間ごとに学習課題を明確にし、児童がその時間に何を学んだのかが分かるまとめを提示することで、学習を確実に積み上がるようにする。 ・ 体験活動や実生活とのつながりを意識させる授業展開により、知識・技能の定着を図る。	・ 発言や文章、絵や図、ポスター、新聞やリーフレットなど様々な表現活動を行う。内容を教科書やその他資料を基にすることで、自分で考え、まとめることができるようにする。	・ 児童がイラストや写真資料から気付いたことや分かることを話し合うことで、課題を解決するための学習問題を自分たちで設定し、意欲的に取り組むことができるようにする。 ・ 発言以外にも ICT やノートでの表現活動を重視することにより、自信をもって取り組むことができるようにする。

(2) 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・ 日常的に地図帳を活用すると共に、第3学年で学習する地図記号と、第4学年で学習する等高線を用いて、第5学年の国土の学習の土地利用の課題解決を行うなど、資料活用の技能を系統的に身に付けられるようにする。 ・ グラフなどから分かる傾向などを基に学習課題を見出し、情報を抽出して、それらを関連付けながらまとめていく活動を行うことで、資料を基に課題解決することができるようにする。	・ 新聞記事を用いたスピーチ活動や、社会的事象に関する今日的な課題についての議論を取り入れることで、考えを広げたり、深めたりすることができるようにする。 ・ 児童同士が議論を行う際には、調べた内容を振り返ったり、課題を共有したりすることで、既習の知識や生活の中での経験を基に話し合わせるようにする。	・ 既習事項や日常の経験から児童がもっている知識に対し、疑問を感じるような資料を提示し、調べる意欲をもつことができるようにする。また、過去と現在の写真を比較して、変化の要因を考える方法などにより、学習問題を作ることができるようにする。 ・ 「めあて」と「まとめ」を「問い」と「答え」の形で設定することで、児童が自分事として、調べる目的を明確にもてるようにする。

令和6年度 授業改善推進プラン 算数科

1 「大田区学習効果測定」結果の分析

- 単位の換算やグラフの読み取りを正確に行ったり、繰り上がりや繰り下がり、分数の通分などの計算を正確に行う練習に力を入れたりしたことで、どの学年においても、平均正答率が目標値、区内平均、全国平均を上回っている。
- 領域「図形」について、第4学年においては区内の平均をやや下回っている。第5、6学年では目標値、区内平均、全国平均を上回っているが、他の領域と比べると正答率が低い。

2 課題点

- 「図形」領域の図形の理解や作図の仕方に課題がある。
- 「数と計算」領域の分数の相対的な大きさについての理解や小数との変換について課題がある。

3 授業改善策

(1) 低学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・基本的な図形について、具体物を操作しながら、その性質や特徴について理解を促すことで、知識を確実に身に付けることができるようにする。	・具体物を使って考えたり、考えたことを図や言葉に直して表現したりすることができる場を多く設定したり、単位の導入の際には、その量感や単位の関係性を視覚的にわかるようにすることで、言葉での説明ができるようにする。	・日常生活の中から問題を設定し、棒グラフなどに表して量を比べたり、形を組み合わせて模様を作ったりするなど、身に付けたことを実際に活用していく場面を意図的に設定することで、算数の有用性を感じることができるようにする。

(2) 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・正三角形や平行四辺形などについて、その性質や特徴について、具体的な図形を用いて理解を促すことで、知識を確実に身に付けることができるようにする。	・立式の根拠を式や図表、文字を用いて表現したり、他者が表現したものを自分の言葉で説明したりする機会を増やすことで、根拠をもってそれぞれの考えを説明することができるようにする。	・日常生活の中から問題を設定し、作図によって幾何学的なデザインを考えるなど問題を扱うことで、算数の有用性や活用することの楽しさを感じることができるようにする。

(3) 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・三角形や四角形の作図について、これまで学習した図形の性質と結び付けながら、繰り返し作図を行い、理解を促すことで、技能を確実に身に付けることができるようにする。	・自力解決の時間に、図や式、言葉など、様々な方法で自分の考えを書き、発表させることで、多角的に事象を捉え、表現することができるようにする。	・文章問題では、ペアやグループでの学習を多く取り入れることで、友達の考えのよさに気付かせ、学んだ新しい考えを練習問題で活用することができるようにする。

令和6年度 授業改善推進プラン 理科

1 「大田区学習効果測定」結果の分析

- どの学年も区、全国の平均正答率を上回っている。
- カテゴリー別正答率「基礎・活用」について、目標値に達していない学年がある。
- 解答形式が記述式の問題においても全国平均に達していない学年がある。
- 観点別正答率「思考・判断・表現」の観点別正答率で、どの学年も区や全国の平均、目標値に達しているが、他の観点よりも平均正答率が低い傾向にある。

2 課題点

- 基礎的な内容をさらに定着させることに課題がある。
- 記述問題に対し、説明や理由を論理的に書くことに課題がある。
- 思考・判断が問われる問題を読み取ったり解いたりすることに課題がある。

3 授業改善策

(1) 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・ 一人一人が実物を用いて実験し、用語と具体的な事象を体験的に結び付けることができるようにする。また、タブレットのシミュレーションソフトを活用し、知識の定着を図ることができるようにする。	・ 「理科ノートの達人」を参考に、説明の仕方を身に付けさせたり、生活体験や既習の学習を想起させたりすることで、学習したことを基に原因と結果を結び付けて考えることができるようにする。	・ 実験や観察において、自分の考えを短い文章で表現する機会を多く設定することで、自分の考えに自信をもつことができるようにする。

(2) 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・ 実物を用いて実験し、用語と具体的な事象を体験的に結び付けることができるようにする。また、中学年で既習事項を想起させる学習をし、定着した知識をさらに積み上げられるようにする。さらに、反復練習をさせることで、新しく得た知識の定着を図ることができるようにする。	・ 既習事項を表などに整理したり、「理科ノートの達人」を参考に、表現の方法を身に付けさせたりすることを通して、根拠をもって実験の結果を予想し、実験方法を考えさせ、一つの実験の結果を基に他の実験の結果を予想したりすることができるようにする。	・ 問題解決学習の流れに沿って、導入を工夫することで、自然事象への興味関心をさらに高めるようにする。また、「理科ノートの達人」を参照させる機会を設定することで、自分の考えに自信をもつことができるようにする。

令和6年度 授業改善推進プラン 外国科

1 「大田区学習効果測定」結果の分析

- 目標値は、「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に取り組む態度」については、全ての観点において、正答率の平均が目標値を達成した。
- 「主体的に取り組む態度」では、前年度より 1.4 ポイント上回った。
- 「知識・技能」では、前年度より 3.4 ポイント下回った。
- 「思考・判断・表現」では、前年度より 4.2 ポイント下回った。

2 課題点

- アルファベットの識別を促すために、音声聞き、大文字と小文字を識別してアルファベットを書くことに課題が残る。(K、k や Y、y など)
- 活字体で書かれた文字を識別して、その読み方を似た文字が混ざっていた場合にも正しく識別することに課題がある。(d と b)
- 例文を参考にしながら簡単な語句や表現を用いて書くことについて課題がある。

3 授業改善策

(1) 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・授業の始めに、小文字の書き方を全体で確認したり、練習したりする時間を設ける。 ・学習の中で英単語が出てきた際に、アルファベットを見せたり、読んだりする活動を取り入れることで、小文字の識別ができるようにする。	・毎単元の終末では、慣れ親しんだ簡単な語句を用いた例の中から言葉を選んで自分の考えや気持ちなどを伝え合うことで、自分の考えを再構築できるようにする。 ・音声で十分に慣れ親しむ活動をすることで、簡単な語句や基本的な表現を推測しながら読んだり、語順を意識しながら書いたりできるようにする。	・ALT と実際に話す機会を設けることで、主体的に英語を用いて伝えることができるようにする。 ・活動の途中でよいやり取りをしているペアを紹介したり、よい表現で書いている児童を紹介したりすることで、更に意欲的に取り組むことができるようにする。

令和6年度 授業改善推進プラン 生活科

1 昨年度の取組に基く、今年度の課題点

- 昨年度は周年と絡めた地域と関わる取り組みも多く、学校や地域の人々・場所により一層親しみ、愛着をもち、すすんで関わろうとする児童の様子が見られたが、周年に関わらず日頃からすすんで関わろうとする態度が求められる。
- それぞれの単元で、児童一人一人が思いや願いをもち、自分の考えを表現することができたが、個人によって表現する力に差がある。
- 児童一人一人の考えを広げ、気付きの質を高め、自分自身の成長にも気付くことができるようにすることが課題である。

2 授業改善策

(1) 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・ 授業の終わりや単元の終末に、振り返りの時間を設定することで自分と身近な人々や社会及び自然との関わりについての認識を深めることができるようにする。	・ 伝え合い、交流する場を工夫することで、自分の気付きを伝えるだけでなく、友達の発見したことに気付いたり比べたりし、気付きの質を高めることができるようにする。	・ 対象と関わる時間を十分に確保し、繰り返し関わったり試行錯誤して何度も挑戦したりすることができるような活動を設定することで、すすんで対象に関わり、気付きの質を高めることができるようにする。

(2) 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・ 授業の終わりや単元の終末に、振り返りの時間を設定することで、それまでの自分と比べて成長に気付くことができるようにする。 ・ 人と関わるよさを実感したり、人との関わりを通して自分と身近な人々や社会及び自然との関わりについての認識を深めたりすることができるように、話し合いの際に視点を明確にしたり、焦点化したりすることで、自分たちの生活を支えてくれていることに気付くことができるようにする。	・ 友達や先生、地域の人、ゲストティーチャーなどとの交流の際、活動のねらいなど、事前の打ち合わせを十分に行って授業に臨むようにすることで、学校や地域を支えてくれている場所や人々についての考えを深めることができるようにする。	・ 活動の途中や単元終了後にイカすコーナーを設置し、自分の生活に生かしたことを紹介する場を設けて発表することで、すすんで関わることの良さを自覚したり、友達の関わろうとする良いところを認めたりすることができるようにする。

令和6年度 授業改善推進プラン 音楽科

1 昨年度の取組に基く、今年度の課題点

- 低学年でも範奏動画を見られるようにするなどICTを活用したことや児童同士の教え合いの時間や個人指導の時間を増やしたことで、技能の定着に一定の効果が見られた。更なる、技能の定着が必要である。
- 話し合いによって表現を工夫していく時間を十分に取ることができなかったことに課題が残る。考えを出し合って、より良い音楽を作っていく時間を確保していくことが必要である。
- 音楽祭に合わせて主体的に取り組む児童が多かった。引き続き主体的に学習に取り組むことができるように、目的意識や学習の見通しをもちながら、楽しく学ぶことができる環境を整えることが必要である。

2 授業改善策

(1) 低学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・個人指導で、児童の状況に応じた指導を行ったり児童同士で教え合う場面を増やしたりすることで知識・技能を身に付けることができるようにする。	・例を示したり、ICTを活用したりして、考えを共有し、発想を音楽づくりにつなげられるようにする。	・ゲームの要素を取り入れるなど、楽しみながら取り組める活動を増やすことで、意欲をもって活動に取り組むことができるようにする。

(2) 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・その時間に学習する仕組みや要素を掲示することで、共通事項を意識して学習できるようにする。また、スモールステップで習得できるようにする。	・音の上がり下がりなど要素を視覚的に理解できるテンプレートに基づいて、一音ずつ丁寧に確認を行うことで、気持の上下を表現するなどの曲想を表現することができるようにする。	・個別に声を掛け、めあてをもてるよう具体的な例を挙げて話をしたり、支援をしたりする。

(3) 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・要素の特徴を理解できるよう、具体例を挙げて説明する。 ・範奏動画を配信することで、より楽器や楽曲に対する理解を深めると同時に、技能を高めることができるようにする。	・工夫の例に数多く触れたり、提示された例を実際に体験したりすることで、考えをもちやすくする。	・見通しをもって学習し自己の学びを確認できるよう、具体例をあげて説明をする。

令和6年度 授業改善推進プラン 家庭科

1 昨年度の取組に基く、今年度の課題点

- 技能を習得するために個別に対応する時間が十分ではなく、個々の技能の差が大きくなってしまったことに課題がある。
- 学習内容を児童それぞれの生活に生かして考えたり、工夫したり、実践しようとしたりする力が課題である。

2 授業改善策

(1) 第5学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・ I C T機器を活用し、動画や資料を用意することで、学習したことを繰り返し身に付ける機会を設ける。 ・ 実技学習の際は保護者ボランティアに協力してもらい、個別に対応する時間を増やすことで、技能の向上を図る。	・ 自分の身近な家庭生活や学校生活を振り返る機会を題材の導入に設定することで、改善すべき点や課題を見付けることができるようにする。	・ 学んだことを自分の生活に生かそうとする意欲を伸ばすために、自分の生活の中から課題を設定し、解決していく学習課題を設定する。

(2) 第6学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・ I C T機器を効果的に活用し、動画や資料を参考にして、知識をより深めることができるようにする。 ・ 実技学習の際は保護者ボランティアに協力してもらい、個別に対応する時間を増やすことで、目的に応じた技能の向上を図る。	・ 身近な家庭生活や学校生活から課題を設定し、解決していくことを通して、これまで学んだ知識や技能を活用して、自分の生活がより良くなるように考えたり、工夫したりすることができるようにする。	・ 学んだことを自分の生活に生かそうとする意欲を伸ばすために、自分の生活の中から課題を設定し、解決していく学習課題を設定する。

令和6年度 授業改善推進プラン 図画工作科

1 昨年度の取組に基く、今年度の課題点

- 昨年度は、抽象的な形から発想を広げる活動に対して苦手意識を感じている児童の様子が見られたことから、言葉や気持ちをテーマに絵をかく題材を実施し、活動の中で身に付いた技能を活用しながら表現する力を育むことができた。引き続き抽象表現や具象表現を織り交ぜた授業展開を行い、表現方法の幅を広げることが必要であるとする。
- 昨年度は、ICT 機器の活用が主に鑑賞や学習の振り返りに限られているため、鑑賞や振り返り以外の ICT の活用法の検討を行い、カメラ機能を使ったコマ撮りアニメーションの作成や、絵を描く際の補助として画像検索機能を使うなどの活用を行った。その中で、検索したイラストをそのまま写し、膨大な情報を得られることが逆に迷いに繋がるなど、ICT を活用することのメリットとデメリットがあった。
- 今年度の課題として、ICT 機器を活用する場面や方法の精選が必要であるとする。また、既習事項を生かした題材の設定に課題がある。児童の思いや願いに合わせて表現方法を選択することができる力の育成を行っていきたい。

2 授業改善策

(1) 低学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・用具の基本的な使い方を覚えたり、身の回りの材料を集めたりして、用具や材料から自分の気持ちや感覚を表現できるようにする。	・身の回りの材料に十分に触れ、身近な作品を見る機会を増やすことで、様々な方法で表現することができるようにする。	・ねらいにそった活動の見取り（写真、動画）によって、励ましや価値付けを行い、自信をもつことができるようにする。

(2) 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・既習事項と新たに学ぶ内容に関連付け、児童自身が身に付けた知識・技能を生かすことができるようにする。	・様々な表現方法を学ぶことを通して、自分のイメージや考えを深められるようにする。 ・ICT機器を活用して自分や友達の表現のよさを十分に感じ取れるようにする。	・ねらいにそった活動の見取り（作業過程の撮影など）によって、励ましや価値付けを行い、主体的に表現する学習活動に取り組めるようにする。

(3) 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・活動に応じて材料や道具を活用するとともに、前学年までの経験を生かすことができる題材を設定し、創造的につくったり表したりすることができるようにする。	・様々な用具や材料を使うことができる環境を設定し、表現方法を選択できるようにする。 ・ICT機器を活用して自分や友達の表現のよさを十分に感じ、造形的な見方を深められるようにする。	・ねらいにそった活動の見取り（作業過程の撮影など）によって、励ましや価値付けを行い、主体的に表現する学習活動に取り組めるようにする。

令和6年度 授業改善推進プラン 体育科

1 昨年度の取組に基く、今年度の課題点

- 自己の能力を高め、向上しようとする意欲・関心・態度に課題がある。
- 協同的な学びや課題解決の力（友達と関わり合いながら、課題に向き合い解決する力）に課題がある。
- 体力テストの結果、握力・50m走は全学年で全国平均を下回っている。また、低学年（1～3年生）は、前年度と比較して、20mシャトルランは記録が向上しているが反復横跳びが全国平均を下回り、高学年（4～6年生）は、昨年度同様、20mシャトルランが全国平均を下回る結果となった。

2 授業改善策

（1）低学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
- 指導方法や教材を工夫し、遊びの中で身に付けさせたい動きを経験できるようにする。児童が伸び伸びやってみる時間を多く確保し、運動の楽しさに触れながら、様々な動きを身に付けられるようにする。 - 体づくり運動遊び等で、筋力や走力、俊敏性を高められる活動を多く取り入れることで技能を身に付けることができるようにする。	- 楽しく運動遊びのできる場や用具を用いることで、自分に合った場や遊び方を選ぶことができるようにする。 - 友達のよい動きを見付けることができるようにするために、見合う時間を確保し、考えたことを伝える機会を設定する。	- 振り返りの時間を確実に設定することで、1単位時間の自己の高まりを実感することができるようにする。 - できていることを認めたり、励ましたりする声掛けを行うことで、きまりを守り、誰とでも仲よく運動に取り組むことができるようにする。 - 体育指導補助員と連携して、個々に適した支援を行うことで、児童一人一人が運動に楽しく意欲的に取り組むことができるようにする。

（2）中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
- 各単元での技能のポイントを明確にし、映像や模範等で示すことで、単元ごとの運動の行い方を理解できるようにする。また、スモールステップで取り組むことができるような支援をし、児童一人一人の課題を解決できるようにする。 - 体づくり運動等で、筋力や走力、俊敏性や持久力を高められる活動を多く取り入れることで技能を身に付けることができるようにする。	学習カードやICT機器を活用し、児童一人一人が明確なめあてをもち、学習に取り組むことができるようにする。また、チームや友達同士で対話する機会を増やし、仲間とともに、自己や友達の課題を解決していけるようにする。	- 振り返りの時間を確実に設定することで、1単位時間の自己の高まりを実感することができるようにする。 - 児童の取り組みを認める声掛けや児童一人一人の課題に合った支援の声掛けを行うことで、「できる」楽しさを感じることができるようにする。また、児童の実態に合わせてルールを工夫し、誰もが運動の特性を味わいながら楽しみ、意欲的に取り組めるようにする。

（3）高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
- 各単元での技能ポイントを明確にした資料の掲示をすることで、単元ごとの運動の行い方を理解することができるようにする。また、運動に苦手意識をもつ児童もスモールステップで取り組める支援を行い、児童一人一人が自己の課題を解決できるようにする。 - 体づくり運動等で、筋力や走力、持久力を高められる活動を多く取り入れることで技能を身に付けることができるようにする。	学習カードやICT機器を活用し、毎回の授業で自己の課題とその解決に向けて取り組んだ内容を視覚化できるようにする。また、ペアやグループの活動を増やし、友達同士で課題解決に向けた話し合いを行わせ、解決していけるようにする。	- 振り返りの時間を確実に設定することで、1単位時間の自己の高まりを実感することができるようにする。 - 児童一人一人の課題に合った声掛けを教師が行うと共に、児童同士が課題を協働的に解決する活動を通して、「分かる」「できる」楽しさを味わわせ、意欲的に取り組めるようにする。また、児童の実態に合わせてルールを工夫して、その運動の特性を味わいながら、意欲的に活動に取り組むことができるようにする。